

## 5. 安全と健康

からだ  
心も身体も健康でいよう。



- 危険を知ることが、身を守ることにつながる。
- 食生活の乱れは、心身のバランスも乱す。
- 一緒に食事をするって、とても大切。
- 子どもたちの体力が低下しています。

# 危険を知ることが、 身を守ることにつながる。



行動範囲がぐっと広がる小学生の時期は、大人の目の届かないところで事故や事件に巻き込まれる場合も少なくありません。

大切なのは、子ども自身が何が危険なものなのかを知っておくことと、危険を回避する方法を身につけておくことです。「家の前の道は日中は車が多いから子どもだけで歩くのは危険。ちょっと遠回りになるけれど、車の少ない安全な道を通して遊びに行こうね。」というように、子どもがわかるように、何度も伝えることが大切です。

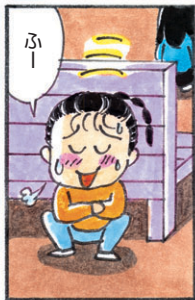
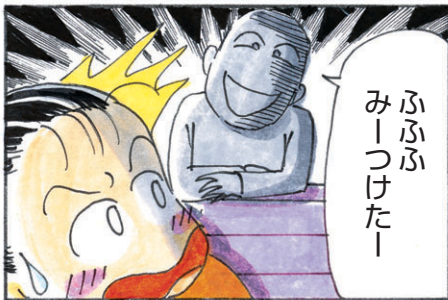
こうしたやりとりの中で、子どもは危険なものを知り、どう回避するかを学んでいきます。

また、思いがけない危険もあります。例えば、見知らぬ人からイヤなことをされそうになったときには、どうすればよいのかを教えることが大切です。

**子どもに危険や事故の防止、対処の仕方について教える**



# 本和加家の場合



# 食生活の乱れは、 心身のバランスも乱す。



心身の成長期にある子どもにとって食事は極めて重要なものです。

最近、子どもの朝食欠食や孤食、偏った栄養摂取による肥満傾向の増大、生活習慣病の若年化など、食に起因するさまざまな健康問題が生じています。

子どもの健康な身体からだの形成のため、栄養バランス(※)のとれた食事をつくってあげるよう心がけましょう。もちろん、食事は単に子どもに栄養を与えるだけのものではありません。親が心を込めてつくった食事は、親の愛情を自然に子どもに伝え、それによる満足感・安心感  
は子どもの心を豊かで強いものに育てる機会にもなるのです。

※食事の望ましい組み合わせなどを図示した「食事バランスガイド」  
について

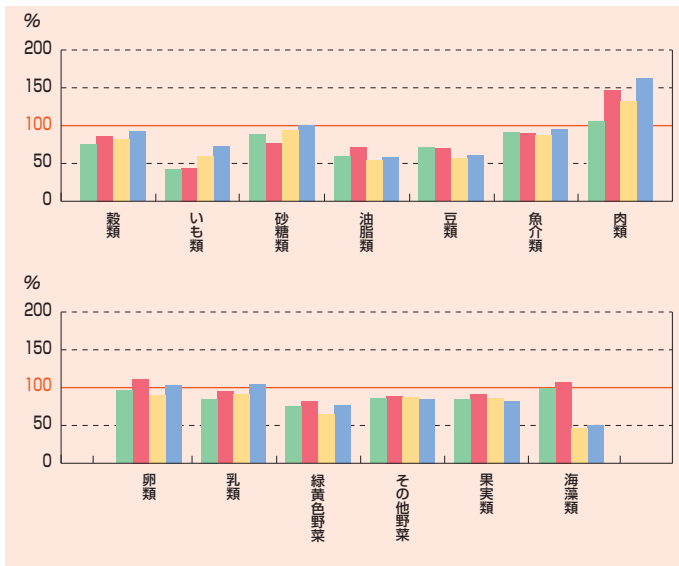
(財)食生活情報サービスセンター・・・<http://www.e-shokuseikatsu.com/>

**栄養バランスのとれた食事をとる**



## 児童生徒の主な食品群の充足率

■ 小学校 女子 ■ 小学校 男子 ■ 中学校 女子 ■ 中学校 男子



(注) 小学校3,396人 中学校3,395人を対象に調査

資料: 「平成14年度児童生徒の食事状況調査報告書」 独立行政法人日本スポーツ振興センター

※「食事バランスガイド」について(財)食生活情報サービスセンター…<http://www.e-shokuseikatsu.com/>

100%が目標値(=心身の健康を守り、育てるための目安となる量)です。

## 一緒に食事をするって、 とても大切。



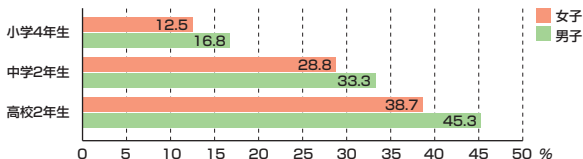
からだ

子どもにとって、食事は身体からだの健康だけでなく、心の成長にも深くかかわっています。家族一緒に食事をすることによって、家族のふれあい、食事のマナーなど社会性を深めることにもつながります。できるだけ家族そろっての食事を習慣にしましょう。

また、食事を一緒に「つくる」ことも大切です、自分の手で食事をつくることを通じて、食材や調理方法について学ぶことができます。また、家族のために食事をつくる喜びや達成感を実感することができます。

一緒に食事をつくって一緒に食べることを通じ、子どもに食に関する知識や豊かな心をはぐくんでいきましょう。

朝食を「ひとりで食べた」と答えた者の割合



(注)各学年、約2,000人を対象に調査

資料:「児童生徒の心の健康と生活習慣に関する調査」平成14年・文科科学省

**家族一緒にの食事を大切にする**



# 子どもたちの体力が低下しています。



子どもたちが、外遊びや運動・スポーツで身体を積極的に動かすことは、子どもの成長にとって大切です。

身体を動かすことによって得られる体力は、人間の活動の源となるものですが、近年、子どもたちの体力は低下してきています。

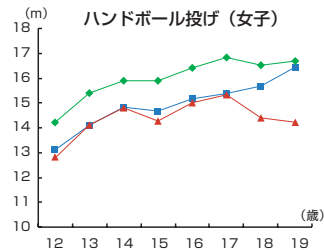
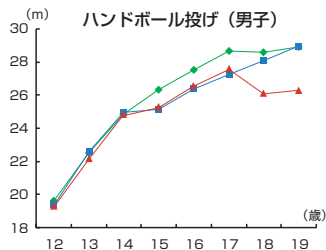
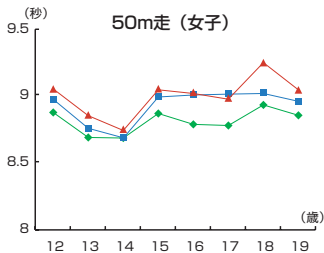
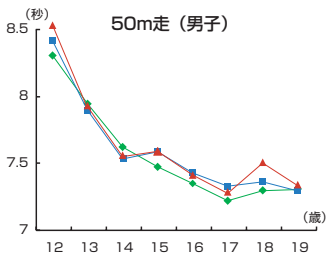
さまざまな外遊びや多様なスポーツ活動を通じて、基礎的な体力や運動能力を身につけさせましょう。同時にスポーツなどで身体を動かす楽しさや喜びを体感させ、運動・スポーツに主体的に取り組む態度を養いましょう。



**子どもにはできるだけ外遊びやスポーツをすすめる**

## 基礎的運動能力の10年前及び20年前との比較

◆ S62      ■ H9      ▲ H19



(注) 12歳～19歳の男女、約20,000人を対象に調査

資料:「平成19年度体力・運動能力調査」文部科学省

「平成9年度体力・運動能力調査」文部省(当時)

「昭和62年度体力・運動能力調査」文部省(当時)